

国立西洋美術館を世界遺産に！！

「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」

L'Œuvre architecturale de Le Corbusier

—Une contribution exceptionnelle au Mouvement Moderne—



【発行】2011(平成23年)年4月 台東区世界遺産登録推進室 TEL03-5246-1111 <http://www.city.taito.lg.jp/sekaisan/>



第35回世界遺産委員会の開催地が、 フランス・パリに変更になりました！

ユネスコ世界遺産センターは、第35回世界遺産委員会の開催地をユネスコ本部のあるフランス・パリに変更することを公表しました（3月18日）。これは、当初の開催地であるパーレーン王国にて非常事態宣言が出されたことや中東情勢が不安定であるためです。

開催時期については、6月19日から29日までの間で変更はありません。なお、会期中のタイムスケジュールについては、開催のおよそ1ヶ月前に発表される予定です。

【開催地】 フランス パリ

【開催時期】 2011（平成23）年6月19日～29日

※詳しくは、ユネスコ世界遺産センターHP (<http://whc.unesco.org/>) を参照ください。



国立西洋美術館、 19世紀ホールの写真壁画案とは？



国立西洋美術館1階中央の展示室は、「19世紀ホール」と呼ばれ、ロダンの彫刻が展示されています。そのスペースは、周囲が白い壁面で覆われ、天井の三角窓（トップライト）から自然光が差し込む明るい吹き抜けの空間になっています。2階展示室へのアプローチは、ル・コルビュジエの建築アイデアの一つであるスロープ（斜路）により移動することができます。

昭和33年の建設当時、この19世紀ホールの白い壁面を写真によるモニタージュ壁画とする計画があったことを知っていますか？

美術館の設計者ル・コルビュジエは、図案や題材を決めて写真を撮り、それを引き伸ばした印画紙をホールの壁面に貼りつけることを考えていました。

そのアイデアは、自身のスケッチにも残されています。コルビュジエは、再来日して自ら写真壁画の指揮を執ることを望むほど重要な仕事と考え、意気込みを見せていました。しかし、最終的に予算やスペースの関係もあり、この計画は実現せず、コルビュジエの再来日もなくなりました。

もし写真壁画が実現されていたら、19世紀ホールにはどのような写真で彩られたのでしょうか。おそらく今とは大きく雰囲気異なり、展示室の活用方法なども違ったことでしょう。



19世紀ホール写真：国立西洋美術館

建築家ミース・ファン・デル・ローエと 世界遺産「ブルノのトゥーゲントハット邸」

MIES VAN DER ROHE (1886-1969)

ドイツ人建築家ミース・ファン・デル・ローエ（本名：ルートヴィヒ・ミース）は、20世紀のモダニズム建築を代表する建築家で、ル・コルビュジエ、フランク・ロイド・ライトとともに「近代建築の巨匠」と呼ばれています。

ミースは、建築家ブルーノ・パウルのもとで製図工として働きながら工芸学校、美術大学で教育を受けました。その後、ペーター・ベーレンスの建築事務所に入所し、本格的に建物設計に従事しました。1912年に独立してベルリンに建設事務所を設立しました。以後、ミースは、ドイツ工作連盟主催の現代建築展（シュトゥットガルト）での芸術責任者、デッサウのバウハウスの校長を務めるなど、建築界をリードし、その生涯に数々の建築作品を生み出しました。

ミースの代表作には、全面ガラス張りの「ファーンズワース邸」や「トゥーゲントハット邸」などの個人住宅や、超高層ビルの「シーグラムビル」などがあります。

ブルノのトゥーゲントハット邸（Tugendhat Villa in Brno）

チェコのブルノにある「トゥーゲントハット邸」は、実業家トゥーゲントハット夫妻の別荘として1930年に建設されました。ミースは、建設経費はもとより、建築設計から設置する家具デザインなどまで建築主から制約を受けることなく、細部にわたり自らのアイデアを実現することができました。

建物は、鉄骨造を採用し、十字型の鉄柱により建物を支えることで壁を自由かつ流動的に配置し、自由な空間設計（ユニバーサル・スペース）を可能にしています。

建物所有は、第二次大戦前後でたびたび移り変わり、1950年にチェコスロバキアの資産となりました。その後、1963年に歴史的文化財に指定され、建物の修復が行われました。1992年には、チェコとスロバキアとの分離独立会談がトゥーゲントハット邸で行われ、歴史の舞台となりました。そして、2001年、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。

お知らせ

世界遺産条約 40 周年記念式典、日本開催決定！

来年2012年11月16日、世界遺産条約(※)が第17回ユネスコ総会で採択された年(1972年)から40周年を迎えます。この節目の年に日本で記念式典が開催されることになりました。日本が果たすべき役割は大きく、注目されます。

※世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約

※条約締約国:187カ国 (2010年8月現在)



「ル・コルビュジエ」関連図書の紹介

ル・コルビュジエに関する主な図書を紹介します。

- ① 暮沢剛巳著「ル・コルビュジエ」(朝日新聞出版、2009年)
- ② 越後島研一著「ル・コルビュジエを見る」(中央公論新社、2007年)
- ③ 安藤忠雄著「ル・コルビュジエの勇氣ある住宅」(新潮社、2004年)
- ④ 磯崎 新著「ル・コルビュジエとはだれか」(王国社、2000年)
- ⑤ 林 美佐著「再発見/ル・コルビュジエの絵画と建築」(彰国社、2000年)
- ⑥ 高階秀爾ほか編「ル・コルビュジエと日本」(鹿島出版会、1999年)
- ⑦ 「ル・コルビュジエ 建築・家具・人間・旅の全記録(エクスナレツジ、2002年) 等

